

日本特別活動学会 重点課題研究プロジェクト申請書

提出日 西暦2022年12月26日

1. 研究代表者

氏名	小田純也	所属	筑波大学大学院(院生)
----	------	----	-------------

2. 研究課題名

インクルーシブ教育システムの実現に資する学級システムの解明

3. 研究組織 ※欄が不足する場合は増やしてください。本学会員にはチェック☑をつける

氏名	研究分担者、研究協力者の別	会員	所属
相庭貴行	研究分担者	<input checked="" type="checkbox"/>	筑波大学大学院(院生)
京免徹雄	研究分担者	<input checked="" type="checkbox"/>	筑波大学人間系
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	

4. 研究目的 ※何をどこまで明らかにしようとするのか具体的に記入してください。

発達障害児などの集団活動に困難を抱える児童をも包摂する学級において、学級内の関係性の中に生じる困難や課題に対応するために、教師児童間相互の関係性や学級システムをどのように構築し、共生に資する社会システムへと変容しうるのかを明らかにすることを目的とする。
 通常学級におけるインクルーシブ教育の実現のために障害児の存在を通して学級や周囲の人々の認識や規範が変容することで多様な児童を包摂しうるという「社会モデル」で捉え直す必要がある。このようなインクルーシブ教育の達成のためには、学級が共生に資するシステムへと変容することが求められる。特別活動は学級における教師と児童らの関係を再構築しうる教育活動であることから、本研究では教師の学級づくりと児童の学級活動における関係性の再構築過程を明らかにすることで、共生に向けた社会システムとしての学級の機能を明らかにする。

5. 対応する重点課題 ※①～④の数字を記入する

③

- ①学校での実践を活性化するための研究
- ②特別活動の担い手を育てるための研究
- ③特別活動の意味と機能を明らかにするアカデミックな研究
- ④次期学習指導要領の「特別活動」の構造と内容を提言する研究

6. 研究期間及び計画 ※具体的に箇条書きにしてください。

研究期間: 2022年 4月～ 2024年 3月(2 年間)

- ・Gerzelsらのシステム社会システムとしての学級の機能を明らかにする。
- ・学級を社会システムから考察することで学級で生じる現代的問題を捉え直す。
- ・「共生」や「支持的学級風土」に資する学級活動(1)の特質を考察する
- ・インタビューを通じて発達障害児に対する教師の認識を整理する
- ・インタビューを通じて教師が学級活動に見出す意義を明らかにする
- ・参与観察を通じて学級システムにおける児童・教師などの関係性を明らかにする
- ・参与観察を通じて学級システム自体の変容過程を明らかにする
- ・調査結果をもとに、日本特別活動学会の研究大会等で発表する。

計画されているものに☑してください。

学会・雑誌名・時期など

<input checked="" type="checkbox"/>	年次大会や研究会等での発表	日本特別活動学会の研究大会(2023年夏、2024年夏)
<input checked="" type="checkbox"/>	学会誌への投稿	日本特別活動学会紀要、大学の研究紀要(2024年度)
<input type="checkbox"/>	オンライン研究会などの開催	
<input type="checkbox"/>	研究成果報告冊子／書籍の発行	
<input type="checkbox"/>	その他	

8. 研究費助成の希望

選択→ 有

有を選択した場合、別タブの「予算申請書」を作成してください。

9. 科研費申請の有無

選択→ 科研費申請の予定はない

10. 研究誓約事項

チェック

- ・日本特別活動学会の研究倫理規定を熟知している。
- ・研究対象のプライバシー保護など人権に配慮して研究を進める。
- ・研究費を適正に使用する。
- ・成果発表において盗用・剽窃などの研究倫理違反をしない。
- ・年度末に研究成果報告書を提出する。
- ・研究倫理に関する上記のルールを研究分担者および協力者にも順守させる。
- ・本申請書を研究代表者のメールアドレスから添付ファイルで送信したことをもって、上記の誓約書に同意したこととする。